

基礎看護学Ⅲ

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 柏木 ゆきえ 特任准教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座		
対象学年	1	区分・時間数	講義 4.5 時間 演習 18 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

本科目は、人体の構造と機能を理解した上で臨むことが前提である。視聴覚教材やシミュレーターを十分に活用し、バイタルサインの測定をはじめ、全身状態を観察する健康状態の査定に関する技術を学び、看護におけるフィジカルアセスメントの意義や重要性を理解する。そして、フィジカルアセスメントだけでなく、ヘルスアセスメントも加え、対象のアセスメントを理解する。

・教育成果（アウトカム）

人体の構造と機能を理解した上で授業に臨み、講義の他、視聴覚教材やシミュレーター、学生間での観察を通して、問診と視診・触診・打診・聴診の技術を用いて、系統別に身体の状態を査定することができるようになる。事例では、対象に必要な観察は何かを考え、その結果から対象の状態をアセスメントし、必要な援助を考えることができるようになる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：3, 4

・到達目標（SBO）

1. 看護の視点で対象者を観察することができる。
2. フィジカルアセスメントができる。
3. 収集した情報を統合して健康状態をアセスメントできる。

・授業日程

(矢) 西 1-A 講義室、(矢) マルチ 4-A 講義室
 (矢) マルチ 2-A 実習室、(矢) マルチ 2-B 実習室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
11/1	月	3	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	フィジカルアセスメントとは バイタルサイン 身体計測 ・看護におけるフィジカルアセスメントの意義や重要性を述べる事ができる ・フィジカルアセスメントの基本技術(問診・視診・触診・打診・聴診)を説明できる
11/12	金	2	共通基盤看護学講座	柏木 ゆきえ 特任准教授	呼吸器系のアセスメント① ・呼吸器系のアセスメントの目的と方法を説明できる
11/19	金	2	共通基盤看護学講座	小林 由美子 講師	循環器系のアセスメント① ・循環器系のアセスメントの目的と方法を説明できる

【演習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
11/1	月	4	共通基盤看護学講座	菘蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	頭頸部と感覚器のアセスメント ・頭頸部と感覚器のフィジカルアセスメントの目的と方法を説明できる ・頭頸部のフィジカルイグザミネーションを実施できる
11/15	月	3	共通基盤看護学講座	菘蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	呼吸器系のアセスメント② ・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションを実施できる
11/15	月	4	共通基盤看護学講座	菘蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	呼吸器系のアセスメント③ ・呼吸器系のフィジカルイグザミネーションを実施できる

11/19	金	3	共通基盤看護学講座	小林 由美子 講師	腹部消化器系のアセスメント① ・腹部消化器系のアセスメントの目的と方法を説明できる
11/22	月	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	循環器系のアセスメント② ・循環器系のフィジカルイグザミネーションを実施できる
11/22	月	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	腹部消化器系のアセスメント② ・腹部消化器系のフィジカルイグザミネーションを実施できる
11/29	月	3	共通基盤看護学講座	小林 由美子 講師	脳・神経系/筋・骨格系のアセスメント① ・脳・神経系のアセスメントの目的と方法を説明できる
11/29	月	4	共通基盤看護学講座	小林 由美子 講師	脳・神経系/筋・骨格系のアセスメント② ・筋・骨格系のアセスメントの目的と方法を説明できる
12/9	木	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	脳・神経系/筋・骨格系のアセスメント③ ・脳・神経系のフィジカルイグザミネーションを実施できる
12/9	木	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	脳・神経系/筋・骨格系のアセスメント④ ・筋・骨格系のフィジカルイグザミネーションを実施できる
12/16	木	3	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	技術到達度の確認（事例をもとにフィジカルアセスメントを実施①） ・提示された事例について、対象に必要な観察は何かを述べることができる
12/16	木	4	共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師	技術到達度の確認（事例をもとにフィジカルアセスメントを実施②） ・対象に必要な観察を実施できる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント	医療情報科学研究所編集	メディックメディア	2019
教	ナーシング・グラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 第6版	志自岐康子 松尾ミヨ子 習田明裕 金壽子編集	メディカ出版	2017
参	根拠と急変対応からみたフィ ジカルアセスメント	清村紀子 工藤二郎編集	医学書院	2014

・成績評価方法

筆記試験 70 点、演習への取り組み 30 点の合計 100 点とする。
演習への取り組み：演習時の実施状況（参加態度・事前準備）、学修課題の実施状況（提出期限厳守・
記載内容・視聴覚教材の視聴状況）、技術到達度の状況

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている授業内容および到達目標を確認し、予習した上で授業に臨むこと。本科目での指定の教科書だけでなく、解剖生理学など広く授業内容に関連した教科書の章を事前に読んで参加すること。演習開始前には、関連する教科書の章および配布資料を読む、“e ナーストレーナーの動画”または、“WebClass にあげた動画”の視聴覚教材を視聴するなど、イメージトレーニングを行って、学修のポイントを理解した上で参加すること。また、各回で予習復習を目的とした学修課題が提示されるため、その課題に取り組むこと。各授業について、最低 30 分以上の事前学修を要する。フィジカルアセスメントの修得は、繰り返し実施することが必要なため、授業終了後も主体的に技術練習を行い、自己学修を重ねて知識と実技の定着に努めること。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

レポート等の課題は、適宜コメントし返却する。

技術到達度の評価は評価表に基づき評価し、学生にフィードバックする。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：専門分野 I 基礎看護学

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
演習	フィジカルアセスメントモデル “Physiko”	3	呼吸・循環等の観察
演習	呼吸音聴診シミュレーター “ラング II”	1	呼吸の観察